

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



春を待つ白梅のつぼみ
(2月16日 大教会神苑で)

立教175年
2月号

年頭会議におけるお話し

教祖百三十年祭に向けて

おつとめ奉仕人を育てよう

大教会長様

だき、大変嬉しく思っています。

立教175年大教会年頭会議は、1月20日午後2時から大教会神殿で行われ、役員・部内教会長・布教所長らが参集した。先ず1月4日、本部会議所における真柱様の年頭あいさつを拝聴、引き続き、大教会長様は記念祭をつとめえ、教祖130年祭に向かって新たな歩み出しを始めた本年、私たちの日々の通り方の心構えを話された。その後、講堂で会食がもたれた。あいさつの要旨は次の通り。

▼記念祭の御礼

大教会創立百二十周年記念祭には、本当に大勢の方、二千三百人余りの方がお集まりいただき、大変賑やかにつとめることができました。誠にありがとうございました。

記念祭までの間、記念祭当日も、連日、大勢の方が準備のひのきしん等をおつとめいただき、素晴らしい記念祭をつとめることができました。

真柱様・奥様には、前晩からお越しいただき、お玄関に

お帰りになれるまで、終始にこやかにご機嫌麗しくお過ごしいただき、本当に良かったと思います。随分先生・来賓の方々にも大変お喜びいた

特におつとめに関しては、参拝者の皆さんが心一つに一緒にお歌を唱和していただき、うねりに近いような、何とも言えない雰囲気、神殿全体がお歌で響き渡ると言うか、本当に、親神様・教祖・祖霊様が心を震わしてお喜びくださっているような、そんなおつとめを感じ、「今日は、笠岡挙げて、本当に心一つに合わせて記念祭をつとめている。本当に有難いな」と思いました。その姿をご覧いただいたお陰か、御揮毫は「一手一つ」というお言葉でした。

改めてお礼を申し上げます。記念祭におきましては、本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

真柱様・奥様に感じていただいたその「一手一つ」の心で、教祖百三十年祭に向かって、共々に、また勇んでつとめたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

▼今年一年の歩み方……おつとめ奉仕人の育て

今日は年頭会議ということで、今年一年の歩みの上について、どういう用向きで恩報じをするかを申し上げて、心一つに合わせてつとめたいと思います。

私たちは、教祖百三十年祭に向かって、それぞれの教会でのおつとめ奉仕人を、とにかく一人でも二人でも増やそうということで、記念祭は、おつとめ奉仕人をご守護いただくための理作りの節目と位置づけ、三つの実践項目を掲げて、今日まで歩んできました。

記念祭が目的ではなく、記念祭は、飽くまで教祖百三十年祭に向かっての一つの節目、三年千日の歩みの集大成です。

教祖百三十年祭に向かって、おつとめ奉仕人をご守護いただくための歩みは、むしろ、いよいよこれから始まります。

本年は、教祖百三十年祭に向かって、おつとめ奉仕人をご守護いただくための歩みに、いよいよ本格的に掛かっていきます。

正式なご発表ではありませんが、昨年の秋の大祭、また、年頭のごあいさつの中でも、真柱様は「教祖百三十年祭」という言葉を使われました。私たちは、教祖百二十年祭が済んだ翌年から、百三十年祭に向かっての歩みを、もうすでに始め



おつとめ奉仕人の育てについて
具体的な方途を説かれた

ておりますが、百三十年祭に向かったの「理作り」から、今度は、いよいよ、おつとめ奉仕人の「育て」に、しっかりと意識をもってつとめたいと思います。

本年、特別な打ち出しはしません、おつとめ奉仕人を育てていくという思いで歩んでくれたらありがたいと思います。

▼実践項目はよふぼくの心の角目

……… 思いは変えずにつとめよう

三つの実践項目については、記念祭までのものではあっても、これは、よふぼくとして、同じ事なら日々つとめるべきことだと思いますので、スローガンを掲げてではありませんが、その思いはしっかりと持って、日々の理作りに励みながらつ

とめたいと思います。

真柱様は、昨年の秋の大祭で、二代真柱様が提唱された「神一条の精神」・「ひのきしんの態度」・「一手一つの和」という「よふぼくの三信条」について述べられました。

私はこれを伺って、この「よふぼくの三信条」が、大教会の三つの実践項目に符合すると感じました。

まず、実践項目の一つ「日々の理作り」は、親神様・教祖の御守護・お働きに対する喜び・感謝の気持ちを日々の態度に現わすのが一つの意味ですが、神一条の精神がなければ、そういうことはできません。「神一条の精神」を日々の具体的な姿に現わしたものが「日々の理作り」という行ないに現われてくるということです。

続いての実践項目は「家族揃って教会参拝」でした。家族揃ってということは、家族が一手一つになってということですよ。もちろん「一手一つの和」というのは、お道全体とか、それこそ人間皆が心を一手一つに合わせてという意味ですが、一番身近な一手一つの姿こそが、家族団欒の姿であり、それこそ「家族揃って教会参拝」が、一番身近な「一手一つの和」ではないでしょうか。

そして「一日一件にをいがけ」が、正しく「ひのきしんの態度」に符合すると思います。ややも

すると、ひのきしんと言うと、掃除とか教会の用事だけのようには思われがちですが、ひのきしんは、飽くまで、親神様・教祖の御守護・お働きに対する喜び・感謝の気持ちを態度に現わす、それも他人様のために態度に現わすのがひのきしんなら、当然、にをいがけ・おたすけもひのきしんです。むしろ、にをいがけ・おたすけこそが、一番お受け取りいただきやすい「ひのきしんの態度」だと言っても過言ではありません。

こう考えてみると、それこそ「よふぼくの三信条」そのものを日々の中に現わしたものが「実践項目」に当たらないでしょうか。

とするならば、正しく、真柱様が、「笠岡が三年千日と仕切って歩んできた、その道は間違いない。むしろ、その思い・その行ないは、これからも、記念祭が終わってからもしっかりと歩んでほしい」と後押ししてくださったような思いがします。

ですから、「もう記念祭が終わったから」ではなくて、むしろ、是非とも、日々の理作りをしっかりととして、今度は一つ、この喜び・感謝の気持ちを、先ず家族に、それから一人でも多くの人に声掛けして共に教会に参拝し、そして共に一人でも多くの人にをいがけをするならば、必ず、おつとめ奉仕人という大きな御守護も頂戴できるでしょう。

ということ、三つの実践項目については、思いを変えずに、年祭に向かってしっかりとつとめたらどうかと、先ず提唱したい。

▼おつとめ奉仕人をいかに育てるか

……一人でも多くの人を修養科へ出す

しかし、それだけでは、参拝することはできて、おつとめ奉仕人を育てることには、なかなか結びつかないので、それをしながら、今度は、おつとめ奉仕人にどう育てていくかを、一人ひとりが考え、それを実践しなければなりません。

例えば、それぞれの教会で、おつとめ勉強会をするとかおさづけ取り次ぎ勉強会をするとか、大教会がまとまってするよりも、むしろ、教会ごとに、そういうものをするなどして、「育て」に関わることも大事でしょう。

一番手っ取り早い方法は「修養科に送り出す」ことも一つの手立てでしょう。どうしても修養科が無理なら、三日講習会を一人でも多くという形で大いに利用したらいいでしょう。

正式な打ち出しではありませんが、一人でも多くの人を修養科へ出すという思いを持って、今年一年つとめたいと思います。

▼おつとめ奉仕人を増やすということ

それから、おつとめについて、詳しくは、明

日、改めてお話ししますが、おつとめ奉仕人が一人でも増えることが、親神様・教祖にお働きいただいで、より自由の御守護が現われて陽気ぐらしに立て替わってくる大きな道筋になってきます。

単に教会が栄えるためにおつとめ奉仕人を増やそうと言っているのではなくて、やはり、目指すべきは世界一れつ陽気ぐらしに立て替わる元立で、改めて認識し、そのために、おつとめ奉仕人を増やすことが大事だと、しっかりと心に置いていただきたい。

とにかく、声を掛けられる人には、一人でも多く声を掛けていく。なかなかお話しを取り次ぎにくかったら、「世界の人にたすかってもらうために、あなたに、おつとめ奉仕人になってほしい」と、それこそストレートに言っても構わないと思います。

おつとめ奉仕人をとにかく一人でも増やすのだという気持ちを強く持ち続けて、その思いを一人でも多くの人に声掛けし、そして育てていくことが大事です。

▼教会のあり方

昨年の秋の大祭の真柱様のお言葉の中で、よぶくがよぶくらしいよぶく、教会長が教会長らしい教会長、そして、教会が教会らしい教会になるためには、教会に繋がる一人ひとりが、にを

いがけ・おたすけにしっかりと励むことが大切だとお示しいただきました。

教会も、にをいがけ・おたすけ、これをどうしていくか、しっかりとこれに掛かることが、一番大事な角目でしょう。

本年、いよいよ教祖百三十年祭に向かってのおつとめ奉仕人を御守護いただき、育て上げていくための歩み出しの年です。

しっかりと、足下を固めながら、共々に、心一つに揃えて精一杯、力一杯、今年一年の歩みをしたと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

《以上要約》





おつとめ奉仕人増員の意義を事を分けて話される大教会長様

春季大祭講話

親神様・教祖にお働き頂ける

おつとめをつとめよう

大教会長様

立教175年大教会春季大祭は1月21日、大教会長様祭主のもと役員・部内教会長・布教所長・よふぼく・信者ら多数の参拜のもと執り行われた。大教会長様は神殿講話で、春季大祭の元一日に思いを寄せ、

「おつとめによってご守護をいただく」という思案に立ち返ることの大切さを強調され、「親神様・教祖にお働きいただけるとつとめ方」について話された。要旨は次の通り。

▼つとめを急き込まれた明治二十年

春の大祭は、明治二十年、教祖が御身をお隠しなされた、その思いを改めて思案し、その思いに沿った成人の歩みを決意するのが、春の大祭の意義です。

その明治二十年の教祖の思いはどこにあったかと言えば、「おつとめをつとめる」ということでした。

『おふびやき』に、

これからハこのよはじめてないつとめ
だんくをしへてをつけるなり 四 90

このつとめせかいぢううのたすけみち
をしでもものをゆハす事なり 四 91
にちくにつとめのにんぢうしかとせよ

心しづめてはやくてをつけ 四 92

このつとめなれの事やとをもてい

せかいをさめてたすけばかりを 四 93

とありますように、つとめによって、親神様・教祖に十分にお働きいただき、身上・事情や争いをこの世からなくして陽気ぐらしの世界に立て替えていく、そのための大切なおつとめです。

だからこそ、教祖が二十五年先の定命を縮めてまでも、おつとめを急き込まなければなりませんでした。

▼おつとめを以ってご守護をいただく

明治二十年、つとめを急き込まれるやりとりの中でのおさしづに、

さあく実があれば実があるで、実と言えは
知るまい。真実というは火、水、風。さあ
く実を買うのやで。価を以て実を買うのや
で。 明 20・1・13

というお言葉がありました。

「真実」というのは、「火、水、風」に親神様・教祖の自由のご守護でしょう。親神様の自由のご守護を頂戴するためには、「実を買う」こと、しかも「値を以て」買うことが大切であると仰る。

「値を以て」というお言葉から、身上・事情をご守護いただくための「おつくし」ということもよく言われるのですが、よく考えてみると、親

神様・教祖の自由のご守護を頂戴するのは、「値を以て」、つまり、おつとめを以てご守護をいただくのだと悟ることができません。

「さあくご守護をもらうのやで。おつとめを以てご守護をもらうのやで。」とも解釈できると思います。

とするなら、しっかりとおつとめの充実を図らなければ、いよいよおたすけに取り掛かることも難しい。

▼ただつとめるのではない

「昔は、おさづけを取り次いだら不思議・自由がいっぱい現われた。最近では、おさづけを取り次いでも、なかなかご守護の理が見えない。」というふうなことも、ときどきには聞きますが、おさづけの理に何も変わりはないとするならば、おつとめの一つ問題があると言っても過言ではありません。

ただ、つとめればいいのではない。

親神様・教祖に少しでもお働きいただくように、やはり理を以ておつとめをつとめる、ご守護いただくために、「値を以て」、僅かずつでもお供えをしてという姿にもなってくるでしょう。

いずれにしても、それぞれの教会でのおつとめの内容をしっかりと充実していくことによって、親神様・教祖に十分に働いていただき、陽気ぐらしに立て替わってくることをしっかりと心におい

て、お互いにつとめねばなりません。

▼おつとめの「人かず」を揃える

そこで、このおつとめの人数は一体何人なのか、と改めて考えると、

五十六十の人かずがほし

七 23

と仰っています。

座りづとめ・前半・後半と三交替しますが、座りづとめだけで、おてふりをする人が六人、鳴物九人、地方が一人で十六人です。

それでは、「それで揃ったのか？」という問題です。

実際には、地方は、本部では三人、せめて二人なら十七人。「十七人で三回やれば三交替」ではなくて、「十七人が総入れ替えで三交替」と考えれば、十七人×三、つまり五十一人になります。

おちばのかぐらづとめは十人ですから、四人足して五十五人。控えも何人か必要なので、当然「五十六十の人かずがほし」ということになるわけです。

ということは、おつとめをつとめられる人が六十人いて、初めて「おつとめ奉仕人が揃った」のであって、ややもすると、「十六人いたら一通り人が揃ったから、おつとめ奉仕人が揃った」というふうな勘違いもあるでしょう。

しかし、本当の「三交替」がそういうことなら

全然足りないのです、本当は一人や二人増えても、まだまだ足りないのが現実なのです。

ましてや、人口がどんどん増えているのに、それ以上におつとめ奉仕人が増えなければ、親神様・教祖にもっと働いていただけなく、より、身上・事情に苦しむ人は出てくるし、陽気ぐらしからは遠退いてしまうことにもなりかねない。

やはり、人口の増加以上に、おつとめ奉仕人をもっと増やしていかないと、親神様・教祖に十分にお働きのだけなくて、たすけもなかなか上がりにくい。

そういうことを考えてみても、いかにおつとめ奉仕人がまだまだ足りないか。

そういう意味から、とにかく一人でも二人でもおつとめ奉仕人が欲しいのです。せめて、今ある教会だけでも、「五十六十の人かず」を増やすぐらいの勢いで、にいがけ・おたすけにからなければなりません。

明治二十年当時は、おつとめをつとめたくても、官憲圧迫などの事情もあって、なかなかおつとめそのものをつとめることができませんでしたから、「人を揃える」ことよりも、先ず、「おつとめをつとめる」ことが第一だったと思います。しかし、現代は、おつとめをつとめることに何ら問題はありません。

今、私たちのこの時代は、おつとめをつとめ、なおかつ、人数をしっかりと揃えることが加わってきたと言えるでしょう。

今、世界中に教会ができ、それぞれにおつとめをつとめられるようになってきました。しかし、その教会が、ぢばの理を戴いてつとめる場所なら、それぞれの教会のおつとめ奉仕人は、やはりきちっと揃うことが大切な角目であり、人数を揃えることが大前提でなければなりません。

▼親神様・教祖にお働きいただく道筋

また、教祖お一人だけで世界だすけに取り掛かっていくのは無理な話で、姿を隠さなければ、本来の意味で、世界一れつを立て替えていくことはできません。姿がないからこそ、世界ろくぢに踏み均しに出ることができるようです。

それでは、姿がなかったら、どうやって、親神様・教祖の言葉を聞くのかということ、**「これまでもやりたくてもやれなんだ」**おさづけの理を、一人でも多くの人に渡し、おさづけを戴いたよふぼくの働きの上乘って、親神様・教祖が働くことができるれば、正しく世界だすけを成就することができるとのことです。

そして、よふぼくがより勇んで働いておさづけを取り次ぐ、そのおさづけに、より一層、親神様・教祖が入り込んで働くためには、おつとめが

必要だということに外ならないわけです。

最近、若い人と話しをすると、ややもすると、どうしても、自分(人間)の知恵や力でおたすけをしようという傾向があります。——これをすればもっとおたすけができるのではなからうか、こうすればもっとおたすけが上がるのではなからうか、親神様の思召を伝え易くはなからうか。——親神様・教祖にお働きいただくご守護をいただくよりも、ややもすると方法論になってしまっ

て、どこか自分の知恵・力で、あるいは技術・資格を持つことによっておたすけしやすいと考える風潮があります。

一つの手立てとしては間違いだとは申しませんが、おつとめ奉仕人に育ってもらうためのおたすけは、やはり、親神様・教祖に直々働いていて、たすかっていたくしか道がないことも考えなければいけない。

どこかで、親神様・教祖を感じていただかなければ、おつとめ奉仕人として育っていただく手立てにはならないということも、しっかりと心においておたすけに掛からねばなりません。

▼教祖百三十年祭に向かって

おつとめ奉仕人の増員ということ
記念祭でご挨拶したように、笠岡大教会は「教

祖百三十年祭に向かっておつとめ奉仕人増員」を目指して、成人の歩みを進めている最中です。これからも、いよいよ本格的におつとめ奉仕人をご守護いただけるように精一杯つとめようと申しました。

「教祖百三十年祭に」については、今秋ごろには真柱様から正式なお打ち出しがありましようが、そうすると、全教挙げて、いよいよ本格的に教祖百三十年祭に向かっての歩みとなります。

私たちは、教祖百三十年祭という目標を持って、もうすでに歩んでいるお互いですから、おぢばからお打ち出しをされて動くのではなく、一人ひとりがおつとめ奉仕人増員という目標を持って、共々に歩むことが大切で、要は育てていくという気持ちを持って歩む、今年の一年の歩みとしたいと思うところです。

教祖百三十年祭に向かって、とにかくおつとめ奉仕人を一人でも二人でも増やそう、皆が同じ思いを持って——それなら私に何が出来るだろうか、若い私に何が出来るだろうか、年いった私に何が出来るだろうか——一人ひとりが考え、自分ができる、おつとめ奉仕人をご守護いただくための手立てを、一人ひとりが確実につとめたならば、必ずや親神様・教祖にお働きいただいて、おつとめ奉仕人をご守護いただき、より、また、た

すけが上がるおつとめになることができるでしょう。

▼実践項目の心は変えずに

そのためにも、「記念祭が終わったから実践項目がもう終わりだ」ではなくて、これをよふぼくの心の角目としてしっかり心において百三十年祭に向かって気持ちを变えずにつとめることも大切です。

昨年の秋の大祭において、真柱様は、二代真柱様が提唱された「よふぼくの三信条」ということをお述べくださいましたが、いみじくもこの実践項目の三つがそれに符合すると思います。

(「年頭会議におけるお話し」を参照)

正しく、「よふぼくの三信条」を私たちは記念祭に向けて、知らず識らずにやってきた。その歩んできた道筋は決して間違いではなかった。むしろ、真柱様が「間違いなくこれからも続けていけよ」と後押ししてくださったようにも私は思います。

どうぞ、せっかくの実践項目を心においていただいて日々辿りたいと思います。

▼一回でも多く、つとめとさづけを

加えて、明治二十年、思いはつとめとさづけでしたから、朝夕のおつとめ・月々のおつとめとは

また別に、一回でも多くおつとめをつとめ、一回でも多くおさづけをお取り次ぎするように、にいがけ・おたすけにと励みたいと思います。

「おつとめ奉仕人増員！」

どうぞ、目標をしっかりと見定めて、それに向かって精一杯、今年一年努力しましょう。

どうぞよろしくお願いいたします。

▼「おつとめ奉仕人」という言葉

なお、「おつとめ奉仕者」という言葉ですが、時々「おつとめ奉仕人」という表現を使うことがあります。

大教会では、おつとめ奉仕人になっていただく方には辞令を出しますが、前会長さんがお作りくださったその「辞令簿」の上に、「おつとめ奉仕人」と書いてあるのです。

「おつとめ奉仕人を命ずる」という形で辞令を出しますが、せっかく前会長さんが「おつとめ奉仕人」という表現をしてくださっているのなら、笠岡では「おつとめ奉仕人」という表現の方がよかるうかと思いい、それに気付いてからは「おつとめ奉仕人」という言葉を使うようになりました。

言葉の違いだけで、意味は一緒ですので、その点を誤解のないようにしてください。

《以上要約》

おかえり講話開催

1月25日 詰所で

布教部

布教部(中村剛部長)は1月25日、午後7時から約1時間半、詰所修練場で、講師に加藤道義先生(西成大教会部属・神桑分教会長)を迎え「お帰り講話」を開催、宿泊者など約90人が参加した。

加藤先生は「十全のご守護」「八つの埃り」について話され、殊に「かしまの・かりもの」について、①生かされて生きている ②貸主である親神様の思召しに添って使わせて頂く心の大切さ ③貸主である親神様に喜んで貰えるよう ④借りものなので期限が来たらお返しする、と4点について諄々と分かりやすく話された。



委員・直轄委員部長

研修会 開催

婦人会

婦人会笠岡支部(上原きよ代支部長)は2月3、4の両日、大教会で同支部委員、直轄委員部長を対象に本年の初例会を兼ねた研修会を開催、31人が参加した。

本年の婦人会本部の活動方針を受け同支部・直轄委員に対しての徹底を図るために開かれたもので、毎年実施している。例年は1日だが今回は1泊2日の日程。

初日は、おつとめまなびをつとめた後、上原きよ代同支部長が「自分自身の信仰心をしっかり育てる事が大切」と講話。引き続き、支部長の講話を受けてのねり合い、また支部のつどいに対して活発な話し合いが行われた。夕づとめ後、慰労会が開かれ親睦を深めた。

翌日は、朝づとめ後、「つとめとさづけについて」大教会長様から教理勉強を受けた。最後に全員で大教会内の清掃などひのきしんを行った。

参加者の1人は「久しぶりの泊りがけの研修会で、日頃ゆっくりと話す事のない委員部長さん達と色々話しをする事が出来た。『教会らしい教会』をご守護頂くために、私達女性がしっかりと成人させてもらわなければいけない」と話し、今年一年の奮起を誓い閉講した。



つとめとさづけについて
分かりやすく話される大教会長様



道の台としての心構えを説く支部主任



熱心に話し込む委員部長たち

成人目標

ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう

活動方針

元なる思召を心に 実のようぼくに育ちましょう

- 一、教えを基に 自らの信仰心を培う
- 一、おつとめに心を込める
- 一、ぬくみ・つなぎの徳分を活かして 身近な人を育てよう
- 一、にをいがけ・おたすけに励み 別席者をご守護頂こう

教会おとまり会の報告

▼笠尋隊

実施日 平成23年10月22日・23日
 参加者数 少年会員9人 育成会員10人 合計19人
 プログラム 「教会おとまり会のごあんない」参照
 所感 笠尋分教会四代会長就任後、今回はじめてのおとまり会でしたが、教会の青年会が中心となり、おつとめまなびやお楽しみ行事を通して少年会員と青年会員との交流も図れ、楽しい会となりました。
 今後もおとまり会のみならず、継続できるよう楽しい会を企画していきたいと思いました。

天理教少年会笠尋隊

教会おとまり会のごあんない

目的： 少年会員が集まって、生かされてる喜びと日々の感謝を学ぶ
 日時： 10/22(土) 17時 ~ 10/23(日) 15時
 場所： 岡山市南区中畦1260 天理教笠尋分教会
 御供： 500円
 持ってくる物： 洗面用具、着替えなど

日程

10/22 1日目

17:00	笠尋分教会に集合
18:00	夕づとめ参拝
18:30	夕食(カレー)
19:00	おつとめまなび(鳴り物含)
20:00	レクリエーション(ゲーム、トランプなど)
21:00	入浴、消灯

10/23 2日目

6:00	起床、洗面
7:00	朝づとめ参拝
7:30	朝食
8:00	ひのきしん
9:00	自由時間
10:00	昼食準備(バーベキュー)
11:30	昼食、片づけ
13:00	解散



* 日程の時間、内容は予定のため多少の変更があります。
 楽しい会になるよう計画しています。

問い合わせ 天理教笠尋分教会 三嶋 090-

ともだち誘って教会に集まろう!!



▼呉福隊

実施日 平成23年11月23日・24日
 参加者数 少年会員めばえ3名 育成会員3名 合計6名
 プログラム 23日 14:00 教会到着、参拝、紹介、おやつ。
 15:00 親神様・教祖・霊様の参拝の仕方、紹介。
 30 神殿(白いくつ下をはく)お掃除
 17:00 夕づとめ(なにも出来ないけれどみんな会長の横に座る)(白いくつ下をはく)親神様・教祖・霊様のお名前復唱。
 18:00 自由おあそび、夕食、お風呂、折紙、ゲーム。
 20:00 おやすみ

24日 (洗顔・おふとんかたづけ、着替)
 6:00 起床、神殿お掃除(白いくつしたをはく)。
 7:00 朝のおつとめ、親神様・教祖・霊様のお名前復唱。
 おつとめ後、ごみひろい(3つ)、朝食後、解散。

所 感 少年会員は4才、2才、赤ちゃん。来年も帰って来てね。(可愛いかった)

白いくつ下をはくのが不思議そうだったが、白いくつ下をはけば神殿上段にあがれるのが嬉しい様子が楽しかった。

反省:この度は到着14:00、出発9:00で会長自身、心に余裕がなかった。次回は鳴物を。

むりやり教会おとまり会にひっつけたようなかたちでしたが、曾孫と神様のお話が出来て嬉しかったことと笠岡大教会スローガン「伝えよう、家族揃って教会参拝」をようやく実現出来まして、親神様・教祖・霊様に感謝の心でいっぱいでした。

▼東悠隊

実施日 平成23年12月31日～平成24年1月2日
 参加者数 少年会員2名 育成会員7名 合計9名
 プログラム 12月31日 教会大掃除ひのきしん。
 1月1日 元旦祭参拝。

所 感 大掃除では近隣の清掃、ゴミ拾いをして、元旦祭、朝夕のおつとめは、鳴物を一生懸命つとめました。

春季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には「人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたい」との思召から この世と人間世界をお創造はじめ下され心と身体のお自由をお与え下さり 日々陽気ぐらしが出来るようにと天然自然のお働きを通してお育て下さっているばかりでなく 約束の年限の到来と共にこの世の表にお現れになり教祖を月日のやしりと定めて 万一切をお明かし下され陽気ぐらし実現へとお導き下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共はお聞かせ頂いた御教えに込められた親心に心よりお応えさせて頂きたいものと 日夜御礼申し上げますと共に御恩報じを思い念じてたすけ 一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にもこの月は教祖が御身を隠されて世界ろくじに踏み均しに出られた尊い月に当たりますので 理のお許しを戴いて 只今からおつとめ奉仕人一同おつとめをつとめられる喜び一杯に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて立教百七十五年の春の大祭を執り行わせて頂きます 御前には遠近を問わず寒さ厳しき中をも厭いませず今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 言改めて御高恩の程に御礼申し上げるべく 共にお歌を唱和する状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて私共は四年後の教祖百三十年祭に向け「おつとめの奉仕人の増員」を果たすべく 本格的に「育て」を意識しての成人の歩みを進めさせて頂いております 昨年世界の人口は七十億人を超え尚増え続けておりますその増加に遅れないようたすけの元立てたるおつとめの奉仕人を増やして行かなければなりません つきましては昨年の記念祭に向けての三つの実践項目を継承し 一回でも多くおつとめを勤め おさづけの取次をすべくにをいかけおたすけにと邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には 御恩報じ一筋に我が身の助かりのみならず助かりの本質を見定めて 世界中の救かりを願う真実の限りを尽くす皆の誠の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り おつとめ奉仕人が弥増したすけの理がより広まって お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお願いの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

<神事部>

○大教会当番について

いろんな事情があると思いますが定められた当番日に合わせておつとめ下さい。

<会計部>

○教会教費金

早めにお納め下さい。

<海外部>

ナイマ・キルワさん (大教会・19歳・女性)

おさづけの理拝戴 タンザニアから女性として初のお参り

立教百七十五年 春季大祭 祭典役割表

控	胡	三	小	す	太	拍	ち	笛	て			地	役割	講話	扈		祭		
									を	お	を				方	者	主		
え	弓	線	琴	鼓	鼓	子	ん		門	田	大	上	岡	大	山	森	中	祭	主
内	今	虫	上	上	三	門	河	上	中	門	田	大	上	岡	大	山	森	中	祭
海	川	明	原	原	島	脇	原	原	島	脇	中	大	上	岡	大	山	森	中	祭
史	佐	好	順	志	元	節	澄	澄	誠	郁	ま	奥	繁	久	弘	忠	忠	大	祭
郎	智	美	子	郎	教	喜	雄	雄	治	子	す	様	道	善	実	平	剛	大	祭
	尾	正	賀	昌	敏	立	久	昌	義	豊	安	香	正	和	誠	真	久	指	贊
	一	美	代	彦	教	生	嗣	直	太	子	子	苗	治	夫	一	一	善	図	者
	美		子						郎					孝	郎	善		方	
	三	中	中	赤	横	中	上	高	武	高	門	谷	杉	谷	中	浅	田	吉	後
	島	村	村	木	山	村	原	木	内	木	脇	内	原	内	野	中	岡	原	半
	照	初	幸	素	逸	道	昭	清	明	孝	加	美	博	伸	明	隆	昌	繁	後
	美	美	子	志	郎	德	浩	祥	明	子	津	子	之	自	教	之	彦	道	半

<布教部>

○教会長講習会

日時 2月26日 午後1時45分 開講 27日 朝食後解散
 場所 笠岡詰所
 受講御供 3,000円

○本部食堂ひのきしん

2月16日~28日 高屋ブロック

<詰所掛>

帰参者名簿に年齢も記入して下さい。

<雅鶯会>

○雅楽勉強会

各教会の月次祭に雅楽を奏でよう。

期日 3月24日(土)

ところ 大教会

対象 初心者・初級者(少年会員、一般)

内容 初心者は、雅楽の基礎から勉強を、また初級者は平調の越殿楽が合奏できるよう勉強します。

講師 大教会雅楽奉仕者

参加費 300円

申し込み 3月20日までに大教会に申し込み

※楽器は各自持参ですが都合がつかない人はご相談に応じます。

<婦人会>

○天理教婦人会第94回総会

日時 4月19日(木)
 9時30分 式典(本部中庭)
 12時30分 支部の集い(詰所)
 13時45分 解散

※参加予定人員報告願います。

○笠岡支部おつとめ大会

日時 5月31日(木)
 9時 受付
 10時 開始(おつとめ14交代、上段にておつとめ衣
 昼食
 13時15分 記念講演 宮崎伸一郎先生
 役割 座りづとめ : 支部長・常任委員他
 よろづよ八首、1・2下り目 : 直轄・東ブロック・西ブロック
 3・4下り目 : 福山
 5下り目 : 上下
 6下り目 : 府中市
 7・8・9下り目 : 高屋
 10下り目 : 久松
 11・12下り目 : 島根

<青年会>

○本年の心定め

ひのきしん隊14人。本部総会100人。

○笠岡分会ホームページ新設

青年会笠岡分会では、このたびホームページを新設いたしました。
 従来のもものよりも見やすくなりました。行事案内、開催記事、コラム等、随時
 更新していく予定です。携帯からもアクセス可能。
 笠岡分会ホームページ <http://kasaokabunkai.main.jp/>



<少年会>

○隊長任命(50隊必要)

願書 2月20日配布

○かさおかむつみ鼓笛隊 春の合同合宿のお知らせ

毎年恒例の笠岡全隊合同合宿を、下記の通り大教会で開催いたします。
 今すでに鼓笛をしている皆さん、これから鼓笛をやってみたいという人、
 みんなあつまれ～|

少年会を卒業した人は係員をお願いします!

記

日程 3月30日(金)
 準備 10時
 係員集合・受付開始 12時
 開講 13時

4月1日(日)

少年会おつとめまなび総会の中で御供演奏

参加御供 1000円とお米3合

※詳しくは各隊の責任者、又は海松ヶ岡・森本まで。案内チラシ2月20日配布。

○おつとめまなび総会

◎教会おとまり会などで練習した成果を親神様、教祖様にご覧頂きましょう

日時 4月1日(日) 受付8時45分 祭儀式9時30分

場所 大教会

役割・祭儀式

- ・祭主：上下、扨者1：福山、扨者2：高屋、賛者1：島根、賛者2：東ブロック、指図方：西ブロック(府中市)
- ・座りづとめ・よろづよ八首：直轄教会
- ・1、2下り目：福山
- ・3、4下り目：高屋
- ・5、6下り目：西ブロック・府中市
- ・7、8下り目：上下
- ・9、10下り目：島根
- ・11、12下り目：東ブロック

内容 午前9時 おつとめまなび、式典、わかぎ門出式、鼓笛お供演奏
午後 アトラクション(模擬店、ゲーム、お楽しみ抽選会)

参加御供 一教会千円

服装 はっぴと白靴下、祭儀式はおつとめ衣

模擬店 東ブロック(ポップコーン)、西ブロック(カレー)、福山(焼ソバ)、高屋(フライドポテト)、島根(ぜんざい)、久松(スーパーポウル)、府中市(射的)

※わかぎ門出式に出席される教会は名簿を2月29日までに少年会に提出して下さい。

※大勢のご参加をお待ちしております。

<学生担当委員会>

○学生層育成者講習会

日時 2月21日(火) 大教会祭典講話として

講師 木村信也先生(本部学生担当委員・北大教会長)

世界の友にをやの思いを
~おちばに心をつないで~



春の学生
おちばがえり大会

学生生徒修養会
[大学の部]

平成24年3月28日(水)

3月3日(土)~9日(金)

■式典「真柱様お言葉」
(午前9時 本部中庭)

■直属アワー ■別席

■後夜祭

時間：本部夕づとめ終了後

笠岡模擬店出店(蒜山風焼そば)

対象：高校生(新1年生を含む)、大学生、
短期大学生、大学院生・専門学校生など

■対象 大学生、専門学校生、大学院生
全期間を通して受講出来る人

■受講費 8,000円

願書は大教会神事所にあります

<災害救援募金・大教会関係>

平成23年3月中旬~12月まで

1,473,907円

▼初のタンザニア女性用木誕生

先に笠岡に繋がる用木となったマユンガ医師から、120周年記念祭に参拝予定をしていたが予定変更になっていた彼女に是非別席を運ばせ、お道の勉強をさせて貰いたいと1月10日にタンザニアからナイマ・キルワさん19歳が来日し、大教会とおぢばを行き来しながら別席を重ね、無事27日におさづけの理を拝戴した。23℃より下がることのないタンザニア首都の気温から一変した日本の1月の気温と、朝づとめから始まる大教会の生活に戸惑いながらも生活を共にした。用木となってからは毎日おさづけの取り次ぎを喜びにしていた。彼女の将来の夢はタンザニアの大統領になり国を良くしたいとの事。敬虔なイスラム教家庭に育ち、教内タンザニア3人目の用木で、初の女性用木となった彼女があこの国でどう世界たすけの役を担うのか今から楽しみが一杯である。この度の滞在中、多くの方の心配りを有難うございました。これからも笠岡に繋がる仲間として宜しくお願ひします。

(海外部長 上原志郎)

こころの詩

東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

生かさる、身上尊し夫婦して

感謝一入初めの地場

春立ちて諸人の幸祈りつ、

離かざるやささらに祈りて

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

立教175年2月10日終講
瑞雲 西村 剛

◎春季大祭詰所受入ひのきしん

自 立教175年1月25日
至 立教175年1月27日

福山ブロック

福輝 田中 亜輝

高屋ブロック

稲讚 高橋 竜二

島根ブロック

雲東 三代 節生

上府ブロック

木津和 丸山 哲子

有志

島根 面谷 美恵子

福芦 藤原 徳美

福芦 藤原 鈴江

瑞雲 豊田 俊美

甲井 山田 敏教

甲井 山田 信子



先日1月28日、広島教区福祉の三布連(視力、聴力、肢体障害者布教連盟)おつとめ学び総会に参加させて頂きました。

その時感じた事は、色んな障害をもたれてる方々が、障害を感じさせない程、一生懸命に、鳴り物をつとめられている姿に、とても感激しました。

目の不自由な方でも完璧にみかぐらうたとリズムもきっちり覚えていた事や、何よりも、おつとめを真剣にされている事が素晴らしく思いました。

改めて自分のおつとめに対する意識が再認識させられました。

最近の色々と忙しくしていて、心もマンネリ化していた今日この頃だったので、このおつとめ学び総会に参加して感じた事をこれからも大切に日々忘れないように努力していきたい。

(う)